

令和3年度 学校評価の自己評価

各評価項目において、職員・生徒・保護者のアンケートの結果をもとに、自己評価を行う。自己評価は、実践目標に対する達成状況とする。

達成状況	A……よくできた	(4.30以上)
	B……できた	(3.70以上)
	C……あまりできなかった	(3.00以上)
	D……できなかった	(3.00より小さい)

※アンケートの数値は5点満点である。詳細は職員会議資料を参照。

評価項目	グループ	実践目標	アンケート 平均値	全平均	自己評価	前年度
家庭や地域への情報発信	職員	学校のホームページや学年通信などを通じて学校の情報を家庭や地域に情報発信し、学校への理解を推進する。	4.35	4.12	B	B
	生徒	学校のホームページ・学年通信などを通じて、学校の情報を知ることができる。	4.20			
	保護者	学校はホームページ・学年通信などを通じて、学校の情報提供を十分に行っていると思いますか。	3.79			
学校施設や教育資源の地域への開放	職員	オープン・ハイスクール（秋）、学校説明会、公開授業を実施し、開かれた学校づくりを推進している。	4.45	4.15	B	B
	生徒	学校はオープン・ハイスクール(秋)、学校説明会、公開授業を実施し、開かれた学校づくりを推進している。	4.21			
	保護者	学校はオープン・ハイスクール(秋)、学校説明会、公開授業を実施し、開かれた学校づくりを推進していると思いますか。	3.79			
基本的生活習慣の確立	職員	挨拶を励行し、時間や校則を遵守させる。交通安全教育を行い、登下校マナーを指導する。	4.25	4.25	B	B
心のサポートシステム	職員	生徒の内面理解や指導方法に関する研修会を実施し、教員の意識改革・資質向上を図る。	4.00	4.01	B	B
	生徒	学校は個人面談や声かけを行い、悩みなどの相談に応じてくれる。	4.22			
	保護者	学校は個人面談や声かけを行い、子どもの共通理解と支援を図っていると思いますか。	3.80			
心のサポートシステム	職員	自殺予防につながる教育プログラムを開発し、実践する。	4.00	4.00	B	B
進路指導体制の充実	職員	3年間を見据えた計画を作成し、組織的・継続的に進路指導を実施し、進路状況・結果について、進路指導部と各学年が連携し、分析・対策を検討する。	3.80	3.93	B	B
	生徒	学校は、進路に関する情報を提供し、進路意識を高め、進路実現に努めている。	4.21			
	保護者	学校は進路に関しての講演会・「進路の手引き」等、進路に関する情報提供を適切に行っていると思いますか。	3.79			
進路に対応した学力養成	職員	早朝補習・放課後補習・長期休業中補習、小テスト等を実施し、必要な学力の向上を目指す。	4.00	4.11	B	B
	生徒	学校は補習、小テスト等を行い、学力向上に努めている。	4.23			
新型コロナウイルス感染症予防対策	職員	学校では、教室の換気や手洗い、マスクの着用を指導し、校内の消毒を行うなど、新型コロナウイルス感染症対策を行っている。	4.40	4.14	B	B
	生徒	学校では、教室の換気や手洗い、マスクの着用を指導し、校内の消毒を行うなど、新型コロナウイルス感染症対策を行っている。	4.21			
	保護者	学校では、教室の換気や手洗い、マスクの着用を指導し、校内の消毒を行うなど、新型コロナウイルス感染症対策を行っていると思いますか。	3.80			
基礎・基本の定着	職員	学習習慣を身につけさせ、基礎基本の定着を図る。朝のSHR前の学習活動「朝学」、ポートフォリオノート、学習用システム手帳の利用など、習慣づけ、振り返りによって個に応じたペースでの取り組みを図る。	4.15	4.04	B	C
	生徒	学校は、家庭学習を定着させるように指導を行っている。	4.21			
	保護者	お子様は、家庭学習の時間を十分に確保していると思いますか。	3.77			

指導形態・ 評価方法の 創意工夫	職員	習熟度別授業や少人数指導などを実施し、個に応じた指導を行い、評価方法についても工夫する。	4.15	4.19	B	B
	生徒	習熟度別授業や少人数指導など、個に応じた学習を実施している。	4.22			
自主的・実 践的な活動 の活性化	職員	学校行事などで、生徒の主体的な活動が行われている。	3.90	4.06	B	B
	生徒	学校行事には本校の特色やよさが表れている。	4.21			
文化・ス ポーツ活動 の推進	職員	部活動の加入を奨励し、部活動を活性化させる。	4.15	4.06	B	A
	生徒	学校では部活動が活発に行われている。	4.23			
	保護者	学校では部活動が活発に行われ、お子様の健全な成長に役立っていると思いますか。	3.80			
人権・SD Gs意識の 醸成	職員	異文化体験セミナーの開催、多文化共生理解のLHRなど、SDGsに基づく国際感覚や人権感覚が身につくよう指導する。	3.80	3.93	B	—
	生徒	学校は、異文化体験セミナーや、多文化共生理解のLHRなどの人権学習を取り入れ、SDGsに基づく国際感覚や人権感覚を磨く機会を設けている。	4.22			
	保護者	学校はSDGsの視点から異文化体験セミナーや人権学習を通じて、お子様の国際感覚や人権感覚を磨く機会を設けていると思いますか。	3.78			
人と環境類 型の推進	職員	成果発表会、まちづくり協議会及びその活動への参加、類型説明会など、積極的に取り組んでいる。	4.50	4.50	A	B
ICT教育の 推進	職員	ICT機器を効果的に活用した授業づくりに積極的に取り組んでいる。	4.45	4.34	A	B
	生徒	学校ではパソコンやプロジェクターなどICT機器を使った授業が行われている。	4.22			